

ゲストハウスカ 第24回 前田有佳利

(ゲストハウスを旅する編集者)

童話『モモ』のように 大切な時間を取り戻す宿

神奈川県鎌倉市に、築93年の古民家を活用したゲストハウスがある。宿に込めた思いを、童話『モモ』で示唆されるメッセージに重ね、イベントを織り交ぜながら、持続可能な生き方を提唱している宿だ。

童話はきっと、子どものためだけのものではない。大人にな

って読み返してみると、短い文章と愛らしい挿絵の中に、今受け取るべきメッセージが潜んでいることが多いにある。ドイツの児童文学作家であるミヒャエル・エンデの著書『モモ』も、まさにそんな一冊。主人公の少女・モモが、時間泥棒に盗まれた人間たちの時間を取り戻すという物語だ。多忙な日々、生きる目的を見失いがちな現代人として、再読すべき本ではないだ

ろうか。今回は、そんな『モモ』と同様に、「大切な時間を取り戻す場所になってほしい」という思いを込めて運営されるゲストハウス「亀時間」を紹介したい。この宿名は、『モモ』で物語の案内役を務める登場人物、亀の「カシオペア」から着想したそう。

亀時間が位置するのは、鎌倉の観光地から少し離れた穏やかな港町・材木座。神社仏閣の建築や補修を専門とする宮大工が

手掛けた築93年の古民家を活用し、2011年(平成23)4月

からゲストハウスが開かれている。外壁から玄關をくぐって共有ラウンジまで続く赤レンガと、夏の日差しを和らげる緑のカーテンとのコントラストが印象的だ。

共有ラウンジの棚の上には、デザインの異なる亀の置物が列をなしている。その中には、心地よい滞在のお礼にと、ゲストからプレゼントされた物もあるという。フリードリンクや本を

片手にくつろいでいるゲストの頭上には、立派な神棚が祀られている。宮大工が、1年半の大仕事をいただいたことへの感謝の意を込め、手掛けたそう。奥には、畳の個室と二段ベッド式の相部屋があり、どの空間にも落ち着いた時間が流れている。土日は、自家製フイ麦パンを

用いたオーブンサンドが名物の「Cafe Kamejikan」、毎月2晩は、南インドカレーを提供するバーレ스토랑「ヨルカメ」が開かれ、地元の人々も営業日を楽しみにしている。

そんな亀時間を運営しているオーナーは、アジア横断やアフリカ縦断の経験を持つ櫻井雅之さん。地元で持続可能な暮らし

やまちづくりに携わる活動がしたいと考え、素泊まりのゲストハウスを開業。旅の経験を生かしつつ、宿を起点に、さまざまなイベントを仲間たちと共に開催してきた。

代表的なのは、開催するたび

に満員御礼となるイベント「インド時間」。鎌倉にある古民家や砂浜を教室と見立て、インドの伝統医学アユルヴェーダやヨガといった心身の健康法を学び、医食同源に基づいたインド式のスパイス料理を味わうという2日かかりのコンテンツだ。

「最近では、僧侶と一緒に鎌倉のお寺を巡り、瞑想を体験して、直接対話しながら仏教に触れるという1泊2日の新企画『宿坊亀時間』を始めました。どのイベントも、楽しみながら明日の暮らしにつながるヒントを得ていただけたらうれしいです」と、櫻井さんはイベントに

前田有佳利 (まえだ・ゆかり) 全国200軒以上のゲストハウスを旅する編集者。1986年生。和歌山市出身。2011年より「ゲストハウス紹介サイトFootPrints」を運営。16年に「ゲストハウスガイド100」(ワニブックス)を出版。18年より全国のゲストハウスを毎月めぐるイベント「ローカルクリエイター交流会 -Guesthouse Caravan-」を主催。和歌山県の移住PR事業にも携わる。<http://www.footprints-note.com/>

亀時間という大きな生き物に導かれるように、ゆるやかな鎌倉の暮らしに身を委ね、自らの日常を見つめ直す。そうすることで、気付かぬうちに見失っていた大切な時間を、きつと取り戻すことができるだろう。



1 「ヨルカメ」でホールを担当する櫻井さん。ケータリングやイベント出店を中心に幅広く活動している「me CURRY」が料理を担当。2 「インド時間」のプログラムの一つとして開催された、材木座海岸でのヨガ。



3 まるで共有ラウンジを見守るように、頭上に立派な神棚が祀られている。4 4人部屋の個室。床の間・欄間・障子など、古くからの趣が大切に残されている。5 鎌倉駅前からバスで約10分。鎌倉時代に栄えた港町・材木座にある亀時間に到着。



DATA

亀時間

住所 ●神奈川県鎌倉市材木座 3-17-21
電話 ●0467-25-1166
料金 ●相部屋3,200円～、個室9,000円～(税込み)